

外国人が「日本への提言」

第1回全国弁論大会、10人が熱弁

第一回「神話博外国」人による「日本への提言」全国弁論大会が、二十四日、出雲市大社町北荒木の大社文化プレイスから開かれ、留学生や国際交流員など、日本に在住する外国人たちが、それぞれの視点で日本をめぐって提言した。第一位となったのは「日本の教育現場に提言」と題して発表した、松江市在住のアメリカ人

ダスティン・ジョン・キッドさん(盟市学・高校教師)だった。大会は、同大会実行委員会(持田勲実行委員長)が主催。持田実行委員長は、あいさつで「日本文化の原資が、外国文化の原資から書類選考で選ばれた、中国、韓国、アメリカ、マダガスカル国など、日本に在住する外国人の、李真然(りしん)さんによる「古代歴史を活かした観光施策について」を聞き取り、今日こ

大事に育て、花を咲かせよう」と述べた。弁論を行ったのは、全国からの応募者の中から書類選考で選ばれた、中国、韓国、アメリカ、マダガスカル国、オーストラリアの十人。李真然(りしん)さんが第一審査の結果、第一位となったダスティン・ジョン・キッドさんは、



十三年間日本に在任し、幼稚園から短期大学までの教育現場に携わってきた経験から、「日本の学校は権限を越えて、保護者は学校に任せすぎ、ハイット禁止はやめるべき」という三点を軸に、現在の日本の教育における欠点を指摘。「学校が本来の権威を取り戻し、家庭にも教育力が戻ってくることで、日本の将来を担う次世代を強くできる」と述べた。

審査委員長を務めた小松昭夫氏は、キッドさんの弁論について「教育委員会、学校、地域社会に鋭く切り込んでいる。ユモアをもって事の本質に迫った」と講評。「今日は素晴らしい提言を皆様から聞いた。これをどのように生かすかがこれからの我々の課題」と語った。

キッドさんは「普段考えていることを、この場で発表できたことは大変喜ばしい」と述べた。審査委員長を務めた小松昭夫氏は、キッドさんの弁論について「受賞の喜びを語った。

優勝したダスティン・ジョン・キッドさんによる弁論の様子。24日、出雲市大社町北荒木、大社文化プレイスから開かれ、日本に在住する外国人による「日本への提言」全国弁論大会が行われた。